４－３　ｅラーニングによる教育支援の振興及び推進

＜事業計画＞

未来に立ち向かう志を持つ若者の学修をネット上で支援する「知の探求・協同学習サイバー・コンソーシアム」の構想について、実効性のある教育支援の仕組み及び支援方法、課題設定の在り方等について見直し、平成２７年度を目途に２年計画で再構築する。

＜事業の実施結果＞

「知の探求サイバー協同学習支援委員会」を継続設置し、知の探求・協同学習サイバー・コンソーシアム構想を２７年度にパイロット事業の構想として提案することを目指して検討した。

知の探求サイバー協同学習支援委員会

平成２６年５月２０日、９月１６日、平成２７年１月１５日に平均３名が出席し、３回開催し、構想の具体化に向けた検討を行った。以下に検討の概要を報告する。

（１）検討方針の確認

構想に掲げた事業の有用性・実現可能性を検証するため、事業を実施していく上での諸条件や課題を整理することにした。その際、構想事業の目的について、国・社会の発展に主体的に取り組む志を持つ若者がネット上で有識者の知見や助言を参考にしながら、分野を横断した総合的な学習を通じて複合的な視点から答えのない課題に取り組み、新たな価値創造に繋がる魅力ある学びとなるよう支援していくことを再確認した。

（２）構想のパイロット事業化のイメージ

①　実施方法

実施方法としては、特定の大学などに協力を依頼し、私情協の資金で構想事業のパイロット事業化を進めることで、新しい教育モデルのノウハウを提案して大学の教育改善に役立てる。また、実施期間としては３年程度を考えるなどの意見があった。

事業のイメージは、ネット上に学習クラウドを形成してコーディネータや知識提供者のファシリテータによる支援を受ける中で、グループによるネット討論及び対面の学習を組み合わせて行う。その上で、学習の中間成果を社会に発信し、省察を繰り返して、最終的な成果をレポートにとりまとめて学習効果の検証を社会的に評価することと考えている。また、支援の対象は未知の時代に立ち向かう意欲のある大学生、高校生、３０歳未満の社会人としていたが、大学を中心としたパイロット事業を想定することで対象者を大学生としており、次年度に改めて検討することにした。

なお、学習者のメリットとしては、次のような意見があった。

＊　既成概念やしがらみにとらわれずに知識を組み合わせて新しい価値の創出に関わることで主体性を身につけることができる。

＊　多様な学習者、社会人と接することで、多面的に考える力を育むことが期待できる。

② テーマの設定

パイロット事業のテーマについて、地域社会の創生を中心に「安全・安心な社会」、「精神的豊かさを実感できる社会」、「地球環境の改善に貢献する社会」、「健康寿命の維持向上を促進する社会」の観点から具体的な課題を選択させる意見があった。ところが地域社会の活性化・再生については、既に大学で学びが実践されていることもあり新規性がないことから、人文・社会科学、自然科学に亘る分野横断型のテーマを検討しなおすことになった。現時点では、「社会的課題解決の設計」、「地球環境改善への貢献」、「原発やエネルギー問題」、「健康寿命の維持向上」などの意見があり、次年度に改めて検討することにした。

③ 学習システムの見直し

以下の観点から検討を行い、次年度に改めて検討することにしている。

＊ 学習の場は、クラウド上でプラットフォームを設けることを基本とするが、夏季・冬季休暇の特定日に対面学習を実施し、学習者の理解を徹底する必要がある。

＊ 学習期間は、パイロット事業が学生の負荷とならないように、８月ごろから開始し、翌年の３月に終了する。

＊ 学習環境として、学習支援システムの構築やシステム管理者の確保が別途必要となる。

＊ 学習支援の仕組みとして、グループごとにファシリテータとして社会人、教員・教員経験者、大学院生で構成する。コーディネイトの機能と知識提供を含むファシリテータの選定は、予めテーマに関連した有識者を選定するとともに、大学院生も大学に協力依頼を行い、支援を受けるなどが考えられる。

＊ ファシリテータの役割としては、学習の内容・方法、予備知識習得のための文献情報の紹介、問題の所在・背景の確認、課題の抽出、振り返りによる発展的な学習方法などの支援が考えられる。費用は有料にする必要がある。